

「意味と内容」が
ひろがる学びの創造

互いのまなざしが
共鳴することによって

CONTENTS

研究会より・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1・2

学習紹介「こうえんたんけんたいー公園での遊びの創造~」(1・2年複式 生科)・・・・・・・・・・ 3

学習紹介「ちいちゃんの見る空はどんな空」(3年 国語科)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

学習紹介「5B 寿司博らん会! ~寿司ネタからみえるものは~」(5年 社会科)・・・・・・・・・・ 5

学習紹介「衣服を気持ちよく~布の構造と空気の関係に着目して~」(6年 家庭科)・・・・・・・・ 6

学習紹介「5年 面積の求め方を考えよう」(5年 算数科)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

学習紹介「自分らしく声に出して読もう」(2年 国語科)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

研究会を終えて



研究主任 石本 倫章

前夜から降り続く雨，しかも休日の土曜日開催ということで，どれくらいの方が参会して下さるのかたいへん心配していました。しかし，心配をよそに，500名近い方々が本校の研究会に集まってくださいました。わたしは公開授業が1校時でしたので，2校時の公開授業を見てまわりました。すると，どの教室も移動がたいへんになるほど先生方でいっぱいでした。また，わたしの体育館での授業も，大勢の先生方にみていただくことができました。研究会の最後，講師先生の基調講演が終わったあと，副校長がお礼を述べた時に，急に職員全員でお礼を申し上げたくなったのも，大きな喜びの表れだったのです。

本年度は，『「意味と内容」がひろがる学びの創造』の研究テーマの2年次でした。サブテーマとして『互いのまなざしが共鳴することによって』を設けて研究・実践を重ねてきました。どちらのテーマも，一見するだけでは研究内容が簡単にご理解いただけないかもしれません。しかし，公開授業では，『「意味と内容」がひろがる学び』は，どの教科でも，子どもたちが楽しく・真剣に学習している姿としてでてくるものだし，『互いのまなざしが共鳴すること』は，触発され，磨きあい，響きあう姿としてうつるものだと考えています。

右の作文は，研究会のときに着目児としてあげた女の子が最後に書いたものです。跳び箱を跳び越せた喜びを書いていることがわかっていただけだと思います。彼女は，運動への意欲が旺盛ですが，技能面の低さから思うような学習成果がえられずにいる子でした。ある時，数人の女の子が，その子がもう少しで跳べると報告にきてくれました。彼女は，その子たちのはげましののおかげで初めて跳び箱が跳び越せたのです。女の子たちはその子以上に喜んでいました。これが，わたしの実践で顕著にあらわれた「まなざしが共鳴している姿」なのです。それ以降，1学期の鉄棒の授業では，ぶらさがることできなかったその子が，休憩時に多くの子と一緒に鉄棒であそんでいます。それは，「とびばこあそび」を通して，できた喜びや人との関係という「意味」をひろげていったからなのです。

とびばこ
はじめとびばこの3だんがとべたとき
は、とてもうれしかったです。つぎの5だんも
れしかつたです。
先生が、
「どこかで手をはなしたらいける。」
と言ってくれたからだとおもいます。ずん
づんががんばつてとべました。
つぎの体育もがんばりたいと思います。

どの子も学習していることに「意味」を感じることで，質の高い学習が展開できたり，その子の良い成長につながったりします。それを目指し，来年度も研究を進めてまいります。

ありがとうございました。

らいぶ★レポート

国語科

国語科では、初発で全体を意識して読むこと。自分の考えをしっかりとって授業に臨むこと。授業の前後や単元の初め、中、終わりでの自己変革を意識させること。によって総合的に読む力を育めるような学習を考え、低・中・高で計4本の授業を提案しました。提案授業についての貴重なご意見ありがとうございました。



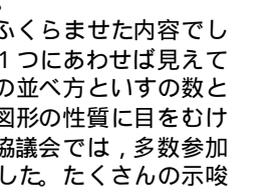
社会科

社会科では『ひとり学習の充実からまなざしの共鳴へ』というテーマで、全体学習を充実させるための、ひとり学習を大切に学習をすすめました。各学級の授業では社会の問題を自分にかかわりのあるものとして追究を深めました。全体学習の中では友達のことを聞きながら、自分の思いを出し合い学級みんなで“まなざしの共鳴”を得ることができました。



算数科

算数科では、3年生「表とグラフ」、4年生「変わり方のきまり」、5年生「面積」の学習を公開しました。どの学年も、ちょっと教科書をふくらませた内容でした。3年生では、2つのグラフを1つにあわせ見えてくるもの、4年生では、テーブルの並べ方といすの数とのきまり、5年生では、面積から図形の性質に目をむけることが課題となっていました。協議会では、多数参加していただきありがとうございました。たくさんの示唆あるご意見、ご助言を頂きました。これからの研究に活かしていきたいと思えます。



理科

本年度、理科部では～『感動』体験を通して問題を解決する過程を楽しむ子どもを育てる～をテーマに研究を進めてきました。研究会の4つの授業で、子どもたちは、光の進み方とかげのでき方、空気と水の温度による体積の変化の仕方、月の動き方、電磁石が強力になる仕組みを追究し、驚きや納得の『感動』を体験しました。



生活科

お手伝いについての報告・体験会を行いました。自分の取り組んだお手伝いを紹介したり、名人になって教えたりすることで家庭では色々な仕事や触れ合いがあることに気付きました。また、赤ちゃんの世話や風呂洗い等の体験を通してこれからも積極的にお手伝いを果たそうとする子どもも出てきました。



音楽科

音楽科の基礎学力を「見る・聴く・愛する力」として、これらを育てる実践研究の3年目です。当初の2年間は「見る・聴く」に焦点を当て、鑑賞活動の質の高まりと映像教材の収集を行いました。成果は鑑賞教材の量的拡大です。今年度の研究発表会では作曲領域「つくって表現」への新しいアプローチを行いました。5年生の音楽教科書を丸ごと使って「曲想」について感じ取らせたのです。30曲中16曲に共通する歌詞「空（そら）」に着目しての比較です。続いて「空」を含む詞を自作し、文節分け・動作化から「曲想」をいかした作曲に移りました。

図工科

図工科では、本年度『もてる力を発揮し、心地よさを味わう学習』をテーマに研究を進めてきました。子どもたちは、体全体をはたらかせて自分の思いのままに造形行為そのものを楽しんだり、友達と一緒に「どうする?」「こうする?」と語り合ったりしながらのびのび活動していました。



家庭科

本年度の研究テーマは「自らの生活を実感し、工夫する楽しさを味わう子どもを育てる家庭科学習」です。子どもたちが生活の中での必要性・重要性を実感できるような学びをすすめていきたいというねがいをもって日々の授業に取り組んでいます。研究会では「衣服の着方」学習を、「生活を科学する家庭科学習」という視点から、「布に付着する汚れ」を布と空気の関わりに着目して授業を行いました。



体育科

本年度体育科のテーマ「運動の楽しさを真剣に学ぶには」のもと、とびばこあそびとサッカーを行いました。当日は雨天で、運動場を使用できないという制限がありました。機能的特性と子どもから見た特性をさぐることによって、子どもたちは意欲的に運動にかかわり、楽しさを十分に味わいながら学習をしていました。



複式

東京・福井・三重を含めて各地の僻地校よりたくさんの先生方にお越しいただきました。協議会では、研究会での授業を通して具体的な質問が出されました。指導助言の先生からは、指導者の出方や子どもの動き、また教科テーマとかかわった点等、これからの本校複式教育に対する課題を整理し、わかりやすくご教示いただきました。



こうえんたんけんたい ～公園での遊びの創造～



生活科
1・2F 担任
松尾 浩一

【複式学級の特性を生かして】

地域の公園を取り上げた生活科の学習は、実践例としてたくさんある。

少人数・異学年集団という複式学級の特性を生かした実践をまとめてみた。

少人数ということを生かして

学校近くの岡公園を教材に取り上げた。公園での遊びの工夫を中心として合計「こうえんたんけん」に6回出向いた。その中で少人数であるために子ども一人ひとりの見とりを丹念に行い、子ども個々の思いを学習の中に生かすことができた。

異学年集団ということを生かして

1年生と2年生では、発達段階に大きな差がある。そこで、昨年より生活科の学習に取り組んでいる2年生にいろいろな場でリーダーになり1年生を引っ張っていく役割を自覚させた。異学年混合4人グループでの遊びを展開する場合のリーダーとして、また活動内容を記録する時には、2年生を担当とした。また、全体学習としての話し合い活動では、2年生の話し方をまねて少しずつ意見の言い方を学ばせた。このように、2年生が手本を示し、1年生がまねるところから学習が始まっていくのは複式学級の特徴である。



2年生が記録するインタビュー



2年生がリードするグループ学習

次に、サブテーマの「遊びの創造」という面から述べてみたい。

今回何回も公園に出向いた理由の1つは、公園の遊具や自然を生かしているいろいろな遊びを考えたり、試したりみんなに紹介することを通して、この公園のよさを多面的に実感したり、公園に愛着をもったり、公園を利用する人とのふれあいをもたせたいと考えたからである。



人気NO1岩山でお昼寝



ベンチを使ってくじびき



蒸気機関車を守る人との出会い

岩陰や神社のお地蔵様を利用したおばけごっこ、すべり台を利用したのボールころがしの的当て、大階段でのじゃんけん遊び等施設・遊具を巧みに利用したり、自然をうまく活用しながら楽しいオリジナルの遊びを創造することができた。

ちいちゃんの見る空はどんな空

ちいちゃんのかげおくり」の読み方



国語科
3年担任
志場 俊之

主題へ迫るために

「ちいちゃんのかげおくり」の主題は、家族の絆、命の尊さ、平和への願いであると考えられる。

主題への迫り方はいろいろ考えられるが、今回の学習では「空」をキーワードとする。

「空」をキーワードに主題に迫る

「ちいちゃんのかげおくり」では、「空」が一つのキーワードになっていると考える。

第1場面の、楽しい家族のかげをおくった空。父がいくさに行った後も、家族を思い浮かべながらいろいろなかげを送った空。ちいちゃんにとっては理想の空と言ってもいいかもしれない。ちいちゃんの思い浮かべるこれからの青い空には、いつも空いっぱい「大きな記念写真」が映し出されていることだろう。第2場面以降、一転して爆弾を積んだ飛行機が飛び回るこわい空が描かれている。お母さんやお兄ちゃんと離れ、くもった暗い空に包まれていく。一人ぼっちでお母さんやお兄ちゃんを探し回る。家も失ってしまう。第4場面には、再び「青い空」が現れる。しかし、ちいちゃんの体は衰弱し、立ち上がることもままならない。かげおくりの幻想、その幻想の中で家族との再会、そして死。

第5場面は、何十年後の「青い空の下」が描かれている。「下」という言葉から「青い空」ではちいちゃんが今の子どもたちを見守っているようにもとれる。子どもたちとちいちゃんの生活の違いにも目を向けられよう。

ちいちゃんにとっての「空」という1つの言葉をもとに全体を学習していくことで、ちいちゃんは「空」をどのように思っているのか、ちいちゃんの身の回りに何があったのか、ちいちゃんは何を思っているのか、ちいちゃんの願いは何なのか、ちいちゃんは何十年後の子どもたちに何を語りかけようとしているのかが見えてくるのではないかと考えた。ちいちゃんの思い出の「空」は、家族を思う場所でもあり、遊び場でもあり、家族との再会の場所でもあり、今の子どもたちを見守る場所でもある。ちいちゃんが見る「空」を子どもたちも見えていくことでちいちゃんの思いに迫り、「空」の向こうに、平和への願いや家族の絆、命の尊さを感じ取ることができるのではないかと考えたのである。

ちいちゃんと子どもたちをつなぐ「きらきら」

主題を意識させるためには、物語をより子どもたちに引き寄せる必要がある。そこで、「きらきら」という言葉に目を向けさせる。

今の子どもたちは、「ちいちゃんのかげおくり」の第5場面でもあるように、毎日「きらきらわらい声を上げて遊んで」いる。平和な社会に包まれ、それを当たり前のように享受している。それは、第4場面の、家族に再会して「きらきらわらわらした」ちいちゃんの様子とは明らかに違う。生まれたときから守られている社会の中で生きる子どもたちを、ちいちゃんの生き方とつなげ、平和への願いや家族の絆、命の尊さにあらためて目を向けさせるためには、それぞれの「きらきら」という言葉を比べることで、子どもたちの生き方に返すことが大切になる。

今の子どもたちの、家族に守られ安定した生活を送っている中で発する「きらきら」と比べると、ちいちゃんの「きらきら」は、命が消えているにもかかわらず、なんと体全体で喜びを表しているように感じられることだろう。家族に会うことだけを思い続け、それがかなう喜びが、この「きらきら」の中にはある。読み手が、戦争を憎み平和の尊さを願う時、より一層、「きらきら」が重い意味を持つてくるといえる。

ちいちゃんが見たいこれからの空は？

ちいちゃんが見てきた空を思い出させながら、天国にいる「ちいちゃんが見たいこれからの空」を考えさせた。子どもたちの視点は、今までどんなことがあったのかと第5場面から文章全体へ、振り返っていった。また、文章全体からこのような悲惨な状況を生んだ戦争ということはどう捉えるかへ、さらに戦争の時代と今の平和な時代を比べる位置へ、そうして、最終的にまたちいちゃんの思いへとめぐっていった。その中で「平和」「かげおくりができる空」「青い空」というような意見を膨らませることで、平和の尊さを願う気持ちを感じ取ることができたと考える。

今と昔の時代には同じような青い空や曇った空もあった。しかし、「昔の曇っている空はイメージまでも曇っている、今の空は曇っていても平和だからいい。」ということを確認して授業を終えた。

5B 寿司博らん会！

～ 寿司ネタからみえるものは～



社会科
5年担任
田中 いずみ

自分が社会科の学習で大事にしたいことは・・・

こんな子に育てたい！

- ・ 好奇心をもって自分の身の回りの社会を見ようと
とする子に！
- ・ 社会的事象と自分をつなげて考えられる子に！
- ・ 見えない部分が見える子に！

(今年は特にここを大事にしたい)

～ 楽しいな！のエッセンスを～

- ・ 調べること ・ 話しあうこと
- ・ 食べること ・ 出かけること

この4つの活動を単元計画に入れる。

2学期の社会科の学習は“寿司”ということで学習を進めた。自分の中では“寿司”の学習で、流通・運輸を子ども達に学習させようと思っていた。3年生での「地域のおすし屋さん」の学習ではなく5年生としての「日本と世界のつながり」をテーマにした学習にしたいという願いがあった。10月に入り、子どもたちに単元計画を考えさせた。ポイントとして・・・

1. 楽しい活動と学習をミックスさせること！
2. 自分ひとりでの学習がしっかりできること！

この2つのことを単元計画の中に入れることを私から子どもたちに注文した。

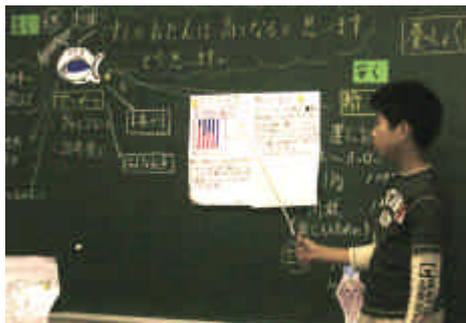


5B 寿司博らん会！！～学習の流れ～

クラスみんなでおすし屋さんに行き、おすしを食べた。126円のアオリイカと315円のアオリイカの値段の違い、すしネタの入っていたラベルからすしネタは世界中の国々から輸入されていること、大トロとマグロの味と値段の違い・・・等々たくさん？？ハテナが生まれたようであった。



ひとり学習の時間を3週間とり、子どもたちの学びの変容を観察した。すると、始めは「すしのネタ調べ」をしていた子が、[イクラ調べ イクラの流通 サケの養殖 栽培漁業 今後の漁業について] というふうな追求の視点が変化してきたのである。また、このひとり学習で調べたことを根拠として友達の考えと比べたり、共有したりしながら全体学習を進めることができた。



研究会当日は『これから寿司の値段は高くなると思います。みんなはどう思いますか？』というJ君の考えを課題として話し合った。資料をもとに「漁獲量の減少で、すしネタの魚が高くなる」という意見や具体的にマグロはこのままだと絶滅してしまうのではないかという意見などが出された。でも自分たちは寿司を安く食べたいという願いの中身を考える中で「自分たちは海を魚を守って行かなくてはならない」という結論になった。しかし、マグロのこと輸送の燃料のことなどまだまだ解決できていないことがたくさん残っている。今もまだ学習中である。

『衣服を気持ちよく』

～ 布の構造と空気の関係に着目して～



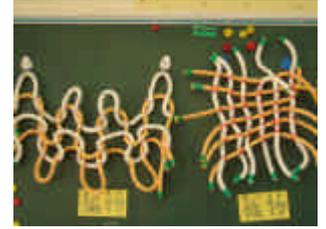
家庭科
6年担任
藤原 ゆうこ

この題材では、生活場面・気温や季節の変化に応じた気持ちのよい衣服の着方や、そのための衣服の手入れの仕方などについて学習する。気持ちよく衣服を着ることの中身を“生活を科学する”視点から、具体的には“布が空気を含んでいる”ことに着目しながら題材計画を立て、授業を展開していった。

布をウォッチングしよう

～ “涼しい着方” “あたたかい着方” の学習から～

子どもたちは身の回りにある布で作られたものを虫めがねを使って観察。布の構造に着目してみると、大きく分けて「編物」「織物」の2つの構造があることに気づく。



布の拡大模型

衣服を水につけてみると



ぷくぷく
泡が・・・

そして、構造が異なる同じ綿の布（編物＝シャツ・織物＝パジャマ）を使って吸水性・通気性を確かめる実験を行った。衣服を水につけてみることで、布に含まれている空気の状態を知り、布の構造と空気の含まれ方が実験結果に関係していることを学習した。

布が水（汗）をすうとは、布に含まれている空気が水におきかわったということ、通気性が大きいということは、布に含まれている

空気が多くて、自由に動きやすいということである。空気に着目することにより、風通しのよい涼しい着方、空気を逃がさない重ね着の仕方などの工夫へと学習を深めていくことができた。また、子どもたちが大好きな物作り活動〔「編物」構造をもちいたあみぐるみ、「織物」構造をもちいたプロミスリング〕を行うことを通して、布の構造を楽しみながら実感することもできた。

すっきりさわやか！洗濯名人

～ “気持ちよく衣服を着るために” の学習から～

ここでは同じ白布（織物）を使って吸水性・通気性の実験を行った。違いは“清潔な布”なのか、“アカや汗などの汚れが付着した布”なのかである。子どもたちは、「空気の含まれている部分に汚れがついて、水を吸うのをじゃまするから」「汚れが空気の通り道をじゃまするから」という理由で清潔な布の方が吸水性・通気性ともに高いと予想した。

実験の結果は予想通り。子どもたちは、汚れが付着した衣服は本来のはたらきが低下することを確かめた。体や外部からの汚れを取ってくれていたという衣服のはたらきを確認したのである。衣服を手入れすることの必要性を感じる洗濯実習へとつなげることができた。



きっと、清潔な布の方が吸水性がいいはず・・・

本物の布を電子顕微鏡で拡大してみると・・・



予想通り、清潔な布の通気性が一番だ！

服は、汚れるから、何となく毎日洗たくしているけれど、こんな大事なはたらきをしているとは思っていませんでした。汗まみれの体操服は、きちんと持って帰って洗わないと・・・。家庭科の「衣」の勉強も大事だなと思いました。

布には空気が含まれていることに着目して、子どもたちは体系的に着方学習をすすめ、自らの生活に生かす学びへとつながったのではないかと考える。

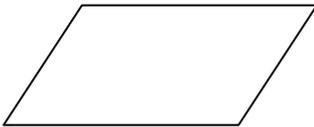
研究会の授業より

5年生「面積の求め方を考えよう」

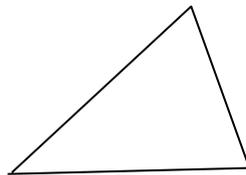


算数科
専科
池田 彦男

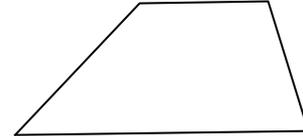
算数科では、「子どもがつなげる算数科学習」という主題を設定し研究に取り組んでいます。「つなげる」がキーワードです。算数の学習を考えてみればいろいろな「つなげる」場面が見られます。例えば、考えと考え、図と考え、式と図、単元と単元、学習と生活など。子どもが、学習をつなげていけば分かり方が深まっていくと考えています。今回は、5年生の「面積」の学習の実践を紹介します。



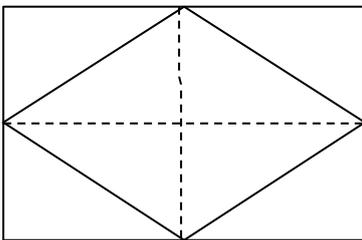
底辺 × 高さ



底辺 × 高さ ÷ 2



(上底 + 下底) × 高さ ÷ 2



面積の学習から図形の性質を見直す活動へ

面積の学習は、「底辺」と「高さ」を見つけることが大切になってきます。平行四辺形から三角形、台形と図形を切って、ずらしたり、回転させたり、同じ図形を合わせたりしながら長方形などの既習の図形に帰着させながら、公式化をはかってきました。

当日の課題はひし形の面積の求め方です。ひし形の面積を求める公式は「対角線 × 対角線 ÷ 2」です。これまでに求めてきた面積の公式とは、色合いがちがいます。「底辺」も「高さ」もできません。それまでは「底辺」を考え「高さ」を見つけてきたのが、直接「対角線」をかけ合わせるのです。今まで、図形を操作してきた子どもたちは、左の図をかき、1つの対角線が長方形の横になっていて、もう一方の対角線が長方形のたてになっていることから公式化しました。

そこで本当に課題にしたかった

「対角線 × 対角線 ÷ 2」で求められる図形は、ほかにないのだろうか。

とたずねました。

対角線が垂直に交わればこの公式が使えることを見つけ出してほしかったのです。そして、対角線に着目することにより図形の見方が豊かになればと考えました。つまり、「量と測定」の面積の学習と、「図形」の学習をつなげたいと考えました。子どもたちは、「平行四辺形、正方形が求められそうだ。」「求められそうにない。」と考えが分かれました。正方形に焦点をしばらく考えました。実際、図をかいて調べてみると1辺の長さをきちんととると対角線が半端(無理数)になります。測定値で求めると誤差が出てきてしまいます。正方形で上のひし形のように図で考えるとできるのに、計算ではできないことに子どもたちは、どうもスッキリしない様子です。

次の時間、測定の精度のこと、無理数の話に少し触れました。ようやくスッキリしたようです。そして、対角線が垂直に交わる図形について学習をつなげていきました。

自分らしく声に出して読もう



国語科
2年担任
碓 起代



みんな きいてね

朝の読書タイムの活用

読書タイムには、担任の読み聞かせを中心にしていたが、ある時子どもたちから「私も読みたい。」「みんなに聞いてもらいたい。」という声が出てきた。そこで今では、担任の読み聞かせコーナー、子どもたちの読み聞かせコーナーができた。自分が読んで友だちに聞いてもらうことで、読むことに自信が生まれ、読書することにも意欲的な姿がみられるようになった。朝の教室は、読み聞かせコーナーが2ヶ所と自分で読みたい本を読んでいるコーナーの3つに分かれ、読書を楽しんでいる。

発声・発音練習

体育の授業で準備運動は必要である。それと同じように子どもたちの声づくりの準備運動も大切である。声は全身を使って出しているので、発声発音練習は、まず全身を十分柔らかくほぐすところからはじめるとよいが、時間的なことも考えて体をリラックスさせることから始めている。

そして腹式呼吸や口の体操をしたあと音読集を活用している。限られた時間の中で子どもたちと「あえいうえおあお」と声を出して楽しんでいる。



ふたりで練習

スイミーの授業

本単元の授業で、初読の読みを子どもたち一人一人が、テープにとることから始めた。そして各場面の学習後にみんなでその場面の情景描写を作成し、教室をスイミーランドにした。子どもたちは、場面の情景を作成中に自分の思いをどんどんそれにぶつけていくとともに読みも深まっていった。最後に一人一人のまとめの読みもテープに入れた。子どもたち一人一人が自分の初読とまとめの読みを聞くことにより、自分の読みの学習の振り返りになった。また、テープから流れてくる自分の声を聞くうれしさ・喜びも生まれた。

子どもたちは、テープにとった自分の読みを聞くことで、音読することの楽しさがわかりはじめたようだ。



From Editors

寒さも厳しくなってきました。2005年もあとわずかです。HPではカラーで紹介していますのでぜひご覧ください。

和歌山大学教育学部附属小学校

〒640-8137 和歌山市吹上1丁目4番1号

TEL (073) 422-6105

FAX (073) 436-6470

URL <http://www.aes.wakayama-u.ac.jp>

E-mail fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp